

# 相談室便り

11月号

生徒の皆さんへ

令和3年11月  
堀江中学校 相談室

## 「されてイヤなことの基準」

わたしたちは、自分がされてイヤなことを人にしてはいけないと教えられています。よくよく考えるとこれはとても難しいことだと思います。なぜなら「されてイヤなこと」の基準が、人それぞれで違うときがあるからです。暴言や暴力は世界共通ともいえる「されてイヤなこと」ですが、それ以外の言動についてはほとんど個人の基準に左右されるからです。

例えば「早くして」と声がかかるシーンです。  
ある人は「せかさされているみたいでイヤ。だから人にも言わない」  
別の人には「ただの声掛け。自分が言われても平気。人にも言っている」

例題のこの両者は、されてイヤなことの基準が全く異なっています。このような違いが日常生活の中には膨大に存在している可能性があります。

あの人はなぜ自分にイヤなことばかりするのだろうか？と悩んだとき、一度その人の基準について考えてみると良いかもしれません。自分にとっては「されてイヤなこと」でも、別の人にはそうでない場合があります。「そのくらい気づけよ」と腹立たしく感じることもあるでしょうが、そもそも基準が違うので、気づく・気づかないの問題ではないのです。

このように考えていくと「されてイヤなことを人にしない」を実行するのは簡単ではなく、とても難易度が高いことだといえます。では、基準値の違う人同士で思いやる関係を作るにはどうしたら良いのでしょうか？

皆さんはどう思いますか？  
どのような策を思いつきますか？

紙面がなくなったので、続きはまたいつか。

